

令和6年度 大田区立道塚小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年3月1日

○学級数 18 学級 児童数 515名(令和6年10月現在)

○自指す学校像「あいさついっぱい、うんどう大好き、できた分かった時のえがお、おもいやりいっぱいの『あいうえおの学校』づくり(全教職員と全児童で取り組む)

○令和4年度からは、大田区教育委員会独自教科新設に向けた研究実践校として「おおたの未来づくり」に向けてのカリキュラム開発に取り組み、今年度は令和7年度全校実施となる為、エリア協議会で区内パイロット校として実践を積み重ねている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評議会人	コメント
生産性測定する困難力を克服するため社会的・育成・成長・創造的に育成します。	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っています。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	☆児童アンケート 友達と協働的学習をすること (グループ学習などで 学びあうこと)は 楽しいですか。」 の質問項目に対する回答	4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満 70%以上 1: 肯定的回答70%未満	くこれまでの取組> ①様々な学習で自らの気付きや疑問を元に課題を設定し、課題解決のための情報を集め、整理・分析・まとめ表現する活動に取り組んでいた。 ②どの教科でも振り返りの時間を大切にし、ワークシート等で実践してきました。また、グループで話し合い、考え方を共有したり、比較したりして深める活動は適宜行ってきました。 ③授業の中ではデジタル教科書やオーリンググラス等を積極的に活用し、情報活用能力の育成を図ってきた。	A 11	道塚小の子ども達は元気で意欲的なところをよく見る。授業でのディスカッションなどのグループ学習はとても身につくと思います。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		☆児童アンケート 友達と協働的学習をすること (グループ学習などで 学びあうこと)は 楽しいですか。」 の質問項目に対する回答	4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満 70%以上 1: 肯定的回答70%未満	く今後の改善策> ①既習事項や生活経験をもとに新たな課題の解決方法を探ったり、自分の考え方を具現化するための手順や方法を考えたりすることにも力を入れていく。 ②これまでの取り組みを今後も継続していく。有効なワークシートを共有していく。 ③新しいアプリケーションの活用等をICTサポートを有効に活用し、積極的に研修していく。	B 2	オーリンググラスへの移行自体が課題だったかと思いましたが、積極的に使っているとのこと、それが先生方と子どもたちです。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		☆児童アンケート 友達と協働的学習をすること (グループ学習などで 学びあうこと)は 楽しいですか。」 の質問項目に対する回答	4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満 70%以上 1: 肯定的回答70%未満	くこれまでの取組> ①既習事項や生活経験をもとに新たな課題の解決方法を探ったり、自分の考え方を具現化するための手順や方法を考えたりすることにも力を入れていく。 ②これまでの取り組みを今後も継続していく。有効なワークシートを共有していく。 ③新しいアプリケーションの活用等をICTサポートを有効に活用し、積極的に研修していく。	C 1	一人一人の振り返りをチェックするのは大変でしょうかが、有効なワークシートを活用してこれからも大事にお願い致します。先生方が子どもが自分で考えられるよう授業の進め方を工夫したり、授業の終わるに振り返りすることにより、自分の頭を整理したり、考えを発展させる手助けができると思います。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		☆児童アンケート 友達と協働的学習をすること (グループ学習などで 学びあうこと)は 楽しいですか。」 の質問項目に対する回答	4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満 70%以上 1: 肯定的回答70%未満	くこれまでの取組> ①既習事項や生活経験をもとに新たな課題の解決方法を探ったり、自分の考え方を具現化するための手順や方法を考えたりすることにも力を入れていく。 ②これまでの取り組みを今後も継続していく。有効なワークシートを共有していく。 ③新しいアプリケーションの活用等をICTサポートを有効に活用し、積極的に研修していく。	D 0	とても重要な目標に対し、学校側で具体的に検討し、実行されていると感じました。
お世帯お界別たと目をつ標榜な2うが人の材国を際育都成市します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国语教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っています。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	☆保護者アンケート 「お子さんが 自分にはよいところがあると 感じている。」 の質問項目に対する回答	4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満 70%以上 1: 肯定的回答70%未満	くこれまでの取組> ①各担任は、外国语教育指導員との打ち合わせを適宜行い授業の展開、役割分担等を事前に実行してから授業に臨んでいます。そのため、児童の実際に合った授業を展開することがでています。 ②総合的な学習の時間や社会科、5・6年生においてはおおたの未来づくり等の学習では我が国や大田区の伝統や文化について調査・体験を通して理解を深めてきました。また、6年生においては、留学生との交流も行ってきました。 ③SDGsの一環として、給食の地産地消や食品ロス、配付物のペーパーレス等に取り組んでいます。	A 9	おおたの未来づくりやカムカム新蒲田と3年生の協働など、地域・おおたとの結びつきを子ども達が担って活動している。英語カフェとてもいいと思います。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		☆保護者アンケート 「お子さんが 自分にはよいところがあると 感じている。」 の質問項目に対する回答	4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満 70%以上 1: 肯定的回答70%未満	く今後の改善策> ①授業以外の外国语教育指導員の活用(英語カフェ)の実践を通して外国语に触れる機会を日常化していく。 ②道德や総合的な学習の時間、各教科指導を通して異文化理解や人権教育の学習を意図的に組み入れていく。 ③SDGsの考えを一部の委員会活動や単発の行事に留まらず、継続性や全校生への広がりを考えた取組にしていく。(代表委員会)	B 5	多くの児童が利用しやすいような英語カフェを実践して欲しいと思う。国際的に推進されているSDGsに対する活動や英語教育が校内の掲示板や資料配布を通じて保護者にも伝わっていると思うので、継続していくべき。ALTと担任の棲み分けに関しては議論されるべきだと思う。大田区の伝統や文化、学校の催しについて英語で発信する取り組みがほしい。ポスター一枚からでも十分。国際社会に出て行く子どもたちのために、語学プラスSDG'Sの考え方を身につけるのが必要ですね。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		☆保護者アンケート 「お子さんが 自分にはよいところがあると 感じている。」 の質問項目に対する回答	4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満 70%以上 1: 肯定的回答70%未満	く今後の改善策> ①授業以外の外国语教育指導員の活用(英語カフェ)の実践を通して外国语に触れる機会を日常化していく。 ②道德や総合的な学習の時間、各教科指導を通して異文化理解や人権教育の学習を意図的に組み入れていく。 ③SDGsの考えを一部の委員会活動や単発の行事に留まらず、継続性や全校生への広がりを考えた取組にしていく。(代表委員会)	C 0	外部の近隣高校との連携など校内にとどまらず、積極的に機会を作ることに努めている。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		☆保護者アンケート 「お子さんが 自分にはよいところがあると 感じている。」 の質問項目に対する回答	4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満 70%以上 1: 肯定的回答70%未満	くこれまでの取組> ①各教科の担当者が講師となり他の教科(道德)の指導と評価の在り方や指導のポイントについて研修会を開いたり、実際に授業を公開したりして、積極的に教員の指導力向上に努めた。 ②算数科では、習熟度別の授業を通過個別応答で実践している。 ③体育主任や体育研究員が積極的に授業公開し、場の工夫や授業展開の工夫について自らが研修で得た知識や技能を広めおり、学んだ教師がすぐに自分のクラスで実践することができた。 ④保幼小の連携協議会や小中一貫教育の会等を通して、情報交換をしたり、授業を見合つたりして円滑な接続を目指してきた。	D 0	こと道德に関しては、学校だけ身につくものではないと思うので、地域や家庭との連携を含めた取り組みが大切ではないだろうか。勉強がよくわかると答えた児童が93%というのまさに先生方の努力の結果だと思います。「勉強がよくわかる」状態になり、それを児童が自覚するにはいくつかのフェーズ(例:授業に問題なく出席する、内容を理解できる、問題が解けるなど)を乗り越えなければならないと思う。学校教育の中の、学問的な教育の意義が実質的に果たされていると言えるのではないか。児童の回答が90%以上だったことがわかり校内の取り組みは評価出来ると思います。それと同時に基礎学力をつけるための家庭学習、例えば毎日の読書(カード記入など家庭への応援要請は從来通りに出来ているのでしょうか?)、学校公開などの機会に算数の習熟度別授業を数度視察させていただいているが、教師はそのレベルに応じた教員ができており、子どもたちも積極的に授業に取り組んでいる様子が見られている。
た一個人別のひ目標と個性力を育成をし発揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っています。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	☆児童アンケート 「授業中、勉強が よく分かりますか。」 の質問項目に対する回答	4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満 70%以上 1: 肯定的回答70%未満	くこれまでの取組> ①道徳教育推進教師が講師となり他の教科(道徳)の指導と評価の在り方や指導のポイントについて研修会を開いたり、実際に授業を公開したりして、積極的に教員の指導力向上に努めた。	A 13	習熟度別や教科担任制など子ども達にあった勉強ができるような体制をとっている。また、幼保小中連携を進めている学校である。中学校との情報交換はとても大事です。その学年にあった教育方針や指導方針があると思いました。個別の情報も大切ですが、その学年の特徴や努力したことなど引き継いでもらいたいです。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		☆児童アンケート 「授業中、勉強が よく分かりますか。」 の質問項目に対する回答	4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満 70%以上 1: 肯定的回答70%未満	く今後の改善策> ①これまで同様、レディネステストや児童同士、教師と児童の人間関係をもとに、クラス編成を行い、習熟度学習が効果的に行えるようにする。 ③体育指導補助員を活用したり、有効な学習カードを共有したりして学習効果を高める。 ④(4)保幼小の連携協議会や小中一貫教育の会等を通して、情報交換をしたり、授業を見合つたりして円滑な接続を目指してきました。	B 0	こと道德に関しては、学校だけ身につくものではないと思うので、地域や家庭との連携を含めた取り組みが大切ではないだろうか。勉強がよくわかると答えた児童が93%というのまさに先生方の努力の結果だと思います。「勉強がよくわかる」状態になり、それを児童が自覚するにはいくつかのフェーズ(例:授業に問題なく出席する、内容を理解できる、問題が解けるなど)を乗り越えなければならないと思う。学校教育の中の、学問的な教育の意義が実質的に果たされていると言えるのではないか。児童の回答が90%以上だったことがわかり校内の取り組みは評価出来ると思います。それと同時に基礎学力をつけるための家庭学習、例えば毎日の読書(カード記入など家庭への応援要請は從来通りに出来ているのでしょうか?)、学校公開などの機会に算数の習熟度別授業を数度視察させていただいているが、教師はそのレベルに応じた教員ができており、子どもたちも積極的に授業に取り組んでいる様子が見られている。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		☆児童アンケート 「学校は子供に 分かりやすい授業を している。」 の質問項目に対する回答	4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満 70%以上 1: 肯定的回答70%未満	く今後の改善策> ①同じ価値項目の題材を同学年で必ず取り組む等、計画性をもって道德指導に当たる。	C 0	学校公開などの機会に算数の習熟度別授業を数度視察させていただいているが、教師はそのレベルに応じた教員ができており、子どもたちも積極的に授業に取り組んでいる様子が見られている。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		☆児童アンケート 「学校は子供に 分かりやすい授業を している。」 の質問項目に対する回答	4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満 70%以上 1: 肯定的回答70%未満	く今後の改善策> ①これまでの取り組みを単発で実践するよりも、より効果的なICTの活用法を研究していく。	D 1	こと道德に関しては、学校だけ身につくものではないと思うので、地域や家庭との連携を含めた取り組みが大切ではないだろうか。勉強がよくわかると答えた児童が93%というのまさに先生方の努力の結果だと思います。「勉強がよくわかる」状態になり、それを児童が自覚するにはいくつかのフェーズ(例:授業に問題なく出席する、内容を理解できる、問題が解けるなど)を乗り越えなければならないと思う。学校教育の中の、学問的な教育の意義が実質的に果たされていると言えるのではないか。児童の回答が90%以上だったことがわかり校内の取り組みは評価出来ると思います。それと同時に基礎学力をつけるための家庭学習、例えば毎日の読書(カード記入など家庭への応援要請は從来通りに出来ているのでしょうか?)、学校公開などの機会に算数の習熟度別授業を数度視察させていただいているが、教師はそのレベルに応じた教員ができており、子どもたちも積極的に授業に取り組んでいる様子が見られている。
学個校別力目・標教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもつて働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っています。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	☆保護者アンケート 「学校は子供に 分かりやすい授業				

た自個 め分別 のら目 学し標 びく5 をい 支き 援い しき まと す生 きる	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるために学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。 ②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。 ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 4 3	☆児童アンケート「学校生活は、楽しいですか」の質問項目に対する回答 4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満70%以上 1: 肯定的回答70%未満	<これまでの取組> ①特別支援教室巡回指導教員と担任者が連携を密にして当該児童に対する対応について共有している。 ②いじめアンケート後に個別に面談をするなど、早期発見・早期対応に努めてきた。 ③スクールカウンセラーカー「相談室」を発行し、気軽に安心して相談できる事業であることを児童や保護者へ発信している。 <今後の改善策> ①特別支援教室巡回指導教員がもつ配慮の必要な児童に対する知識・技能、対処法等を本校教職員にも伝える機会をもつ。 ②いじめ対策委員会により活性化させ、組織として対応していく。 ③これまで教職員が児童のサンを見逃さずスクールカウンセラーに繋げていく。	A	7	不登校やいじめ問題などは道場小だけでなく御園中や他の学校でも起きている問題であり、幼保小中で連続的に対処するようさらなる改善を期待する。 サポートルーム、スクールカウンセラーから歩みよることが大切だと感じます。 「いじめの早期発見・早期対応に努めてきた」「いじめ対策委員会をより活性化させ~」ということは、いじめが少からずあるということです。何か隠される、相談しないできないことから、いじめを発見することは、とても難しい。 学校外でもいじめの発見に繋がることはあるので、情報の循環、また、当該児童に関わる環境・人の連携も大切になってくるかと思う学校生活が楽しいと答える児童が多いことはそれが自分がありがたい姿で楽しめていることの表れだと思う。 ただ、どのような質問が用意されていたかが重要で、「はいいいえ」の2択では、各児童の楽しい楽しくないリアルに反映できた結果とは言えないかもしれません。 この取り組みにはアンケートの回収率を上げることが重要と思う。 早期発見・早期対応に関して、どう努力されているのかわからないです。 児童アンケートの80%が肯定のことですが、他の11%の回答に耳を傾けて対応の努力をお願い致します。 すべての子どもたちが、生き生きと学校生活を送れるよう、引き続き支援をしていきたいと思います。
			4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。				B	6	
			4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。				C	0	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				D	1	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				A	12	安心・安全に配慮し、務めている。 早めの計画で、もっと協力できることもあると思いますのでぜひ。 共働きの保護者が多いため、ボランティア人数の確保が難しくなってきていている。スクールサポートでは、ボランティア層を広げていくことが今後の課題になると思う。 ソフト面ハーフ面のどちらにおいても環境は整えられていると感じる。高学年に自転車のルールを教える必要はないのだろうか。 授業行程でも子どもたちのICTの活用力が必要ですね。安全な使い方の理解が追いついていくようお願い致します。 スクールサポートの方々が運営協議会にも出席されているため、学校や地域と連携した教育環境ができるとともに、スクールサポート、PTAが学校と協力し、授業内や通学においても安全面の配慮を十分行なっている。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				B	2	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				C	0	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				D	0	
安柔個 心軟別 なで目 教創標 育造6 環的 境な を学 つ習 く空 り間 まと す安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。 ②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 3 3	☆保護者アンケート「学校は子供の安全に留意して施設・設備の整備をしている。」の質問項目に対する回答 4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答90%未満80%以上 2: 肯定的回答80%未満70%以上 1: 肯定的回答70%未満	<これまでの取組> ①担任とスクールサポートとの打合せを定期的に行い、地域の特色を生かした学習ができている。また、保護者ボランティアを募り、安全面も考慮した学習環境を整えてきた。 ②消防署との連携として煙体験や起震車体験を教育課程に位置づけて取り組んできた。 <今後の改善策> ①早めの計画立案とスクールサポートとのより綿密な打合せを行っていく。 ②「安全プログラム」をこれまで以上に活用していくようにする。	A	12	安心・安全に配慮し、務めている。 早めの計画で、もっと協力できることもあると思いますのでぜひ。 共働きの保護者が多いため、ボランティア人数の確保が難しくなってきていている。スクールサポートでは、ボランティア層を広げていくことが今後の課題になると思う。 ソフト面ハーフ面のどちらにおいても環境は整えられていると感じる。高学年に自転車のルールを教える必要はないのだろうか。 授業行程でも子どもたちのICTの活用力が必要ですね。安全な使い方の理解が追いついていくようお願い致します。 スクールサポートの方々が運営協議会にも出席されているため、学校や地域と連携した教育環境ができるとともに、スクールサポート、PTAが学校と協力し、授業内や通学においても安全面の配慮を十分行なっている。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				B	2	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				C	0	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				D	0	
			4:「地域コミュニティの核としての学校づくりを目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。				A	11	
			4:「登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。				B	3	
			4:「家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。				C	0	
			4:「日常の教育活動を学校だより、学級だより、HP等で進んで発信している。				D	0	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				A	11	コミュニケーションスクールとして早くから取り組み、学連協を通じて地域関係者のとの連携が図られている。 よりよい学校づくりのため、地域との連携は今後も重要な思います。 学校と地域の橋渡しをどんどんやっていきたいと思います。 以前よりも学校と地域の連携がよく取れているように思う。 授業における地域の方の協力も、さらに1歩踏み込んだ取り組みができるようになっていったりと、これから連携・協働に向けて、更なる進展が期待できる。 学校を核としたコミュニケーションづくりを進めるためには、教職員や保護者、地域それぞれが意識をもう少しづつ変えていくことが必要だと思う。そのためには、情報発信が重要になってるだろうし、それ以外でも何ができるのか、考えていくことが大切だと思う。 学校とのつながりがさまざまな方法で可能であり、地域と保護者、学校が児童を中心としたプラットフォームを形成できている。 教職員の参加という面においては、労働時間として捉え可能な参加形態を探るのか、教員の情熱で参加するのか、難しいところなど感じる。 今年度は先生方の移動があまりにも多すぎて地域との情報共有が難しかったと思います。ある程度、運営委員会は役目を果たせたと思う一方、一層の理解と信頼関係が必要だと思います。 家庭、学校、地域の連携や協働にはコミュニケーションが重要であり、学校運営協議会のみならず、さまざまな形で地域内のコミュニケーションが図られている。今後も地域コミュニケーションのための学校作りに協力していきたい。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				B	3	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				C	0	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				D	0	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。